

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 29 年度 第 1 号 2017 年 9 月 29 日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構

函館水産試験場 調査研究部

TEL : 0138-83-2893 FAX : 0138-83-2849

平成 29 年度道南太平洋スケトウダラ産卵来遊群分布調査（1 次調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：2017 年 8 月 29 日～9 月 5 日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深 100～500m の海域

- ・ スケトウダラの海域平均反応量は、昨年同期と同程度。
- ・ 魚群反応の強い海域は、登別沖。
- ・ 反応の比較的強い水深は、350m 前後（海底に張り付いた反応は 300～350m 付近が中心）。
- ・ 漁獲物は、尾叉長 45cm 前後が主体。
- ・ 水温は、水深 100～250m にかけて平年よりもやや低い。

1. スケトウダラとみられる魚群は、渡島から日高海域にかけて観察されましたが、その中でも胆振海域の 184、185 海区（登別沖）には強い魚群反応がありました（図 1・2）。
2. 渡島から胆振にかけての平均反応量は、前年度とほぼ同程度となっていました（図 3）。
3. 魚群反応は、水深 150～500m にかけて観察されました。特に水深 350m 前後には比較的強い反応がみられましたが、海底に張り付いた反応は水深 300～350m 付近が中心となっていました（図 2・4）。
4. トロール調査の結果、地球岬沖の水深 370m 付近の漁獲物は、尾叉長 45cm 前後のスケトウダラ成魚が主体となっていました（図 5）。
5. 調査海域の水温は、南茅部沖では水深 100～250m にかけて、登別沖では水深 150～250m にかけて平年（2002 年度以降の平均値）よりもやや低くなっていました（-1～-3℃）。スケトウダラ成魚の生息に好適とされる 5℃以下の水温は、南茅部沖で水深 140m 以深、登別沖で同 170m 以深となっていました（図 6）。

なお、今回の資源調査の結果は、漁期始め（10～11 月）の状態を予測するために実施しているものです。12 月以降の状況は、11 月下旬に実施する分布調査（2 次調査）により予測する予定です。調査終了後にスケトウダラニュースを発行して、来遊状況等をお知らせします。

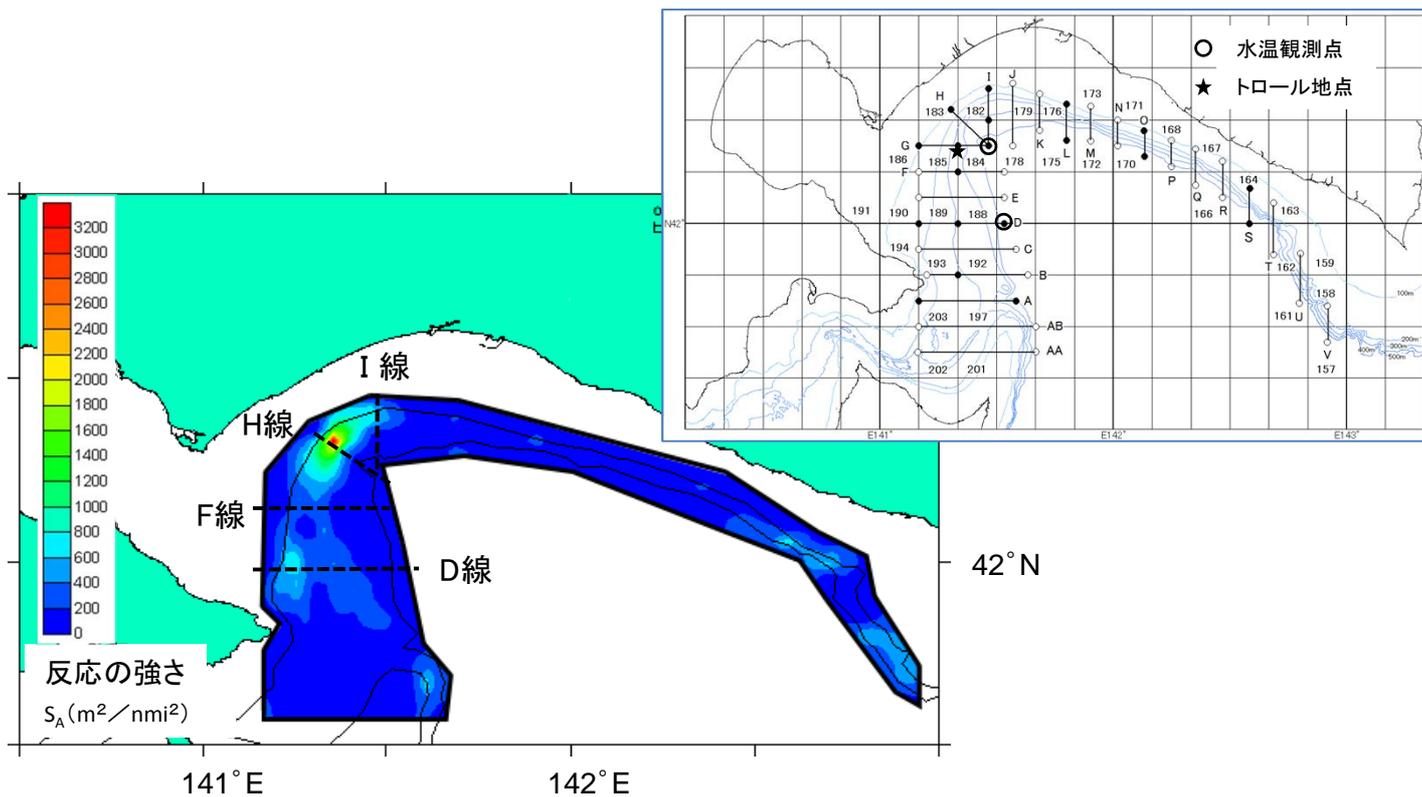


図1 調査海域における魚群の分布(右上図は調査海域図)

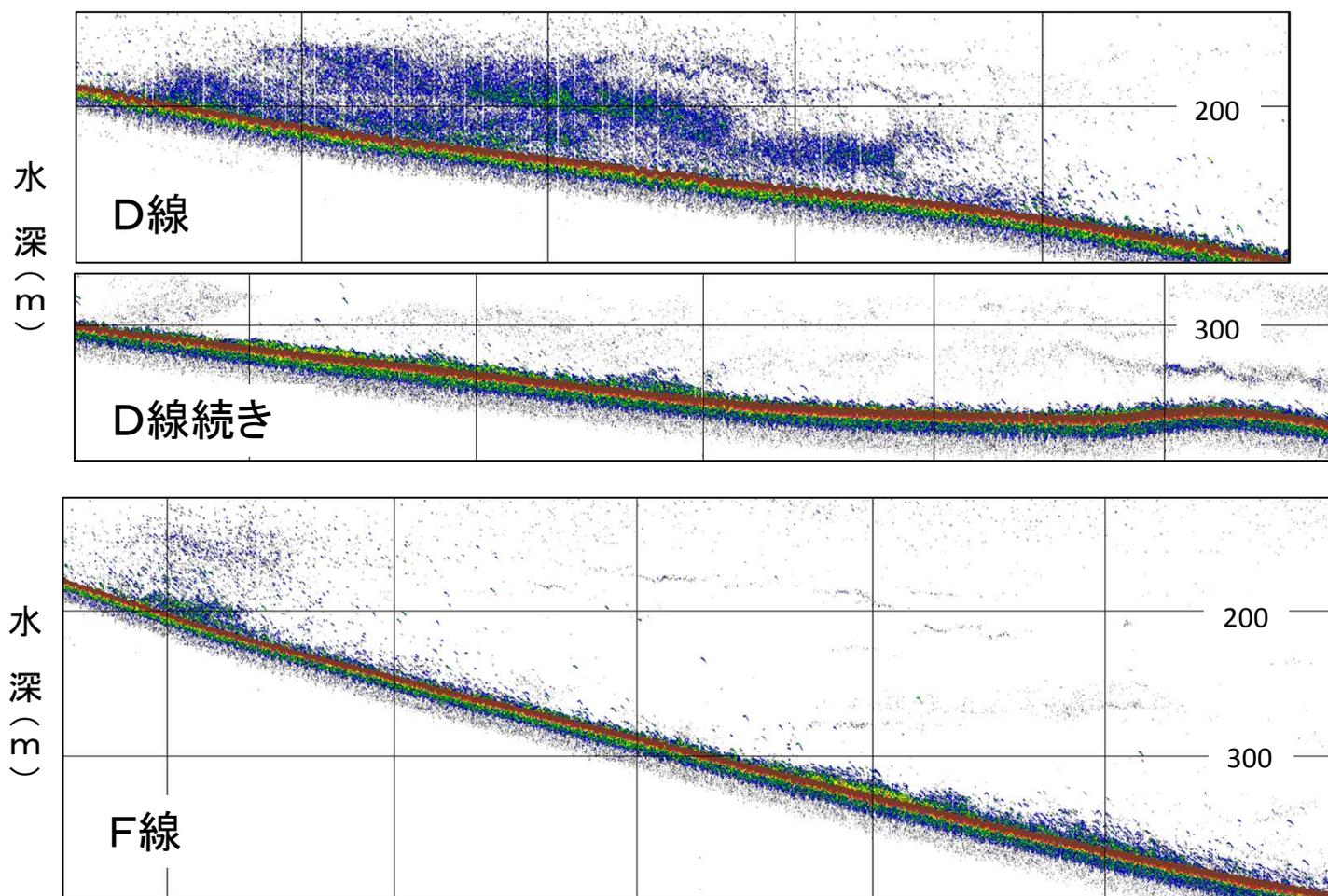


図2-1 魚群の分布状況(計量魚探画像)
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m

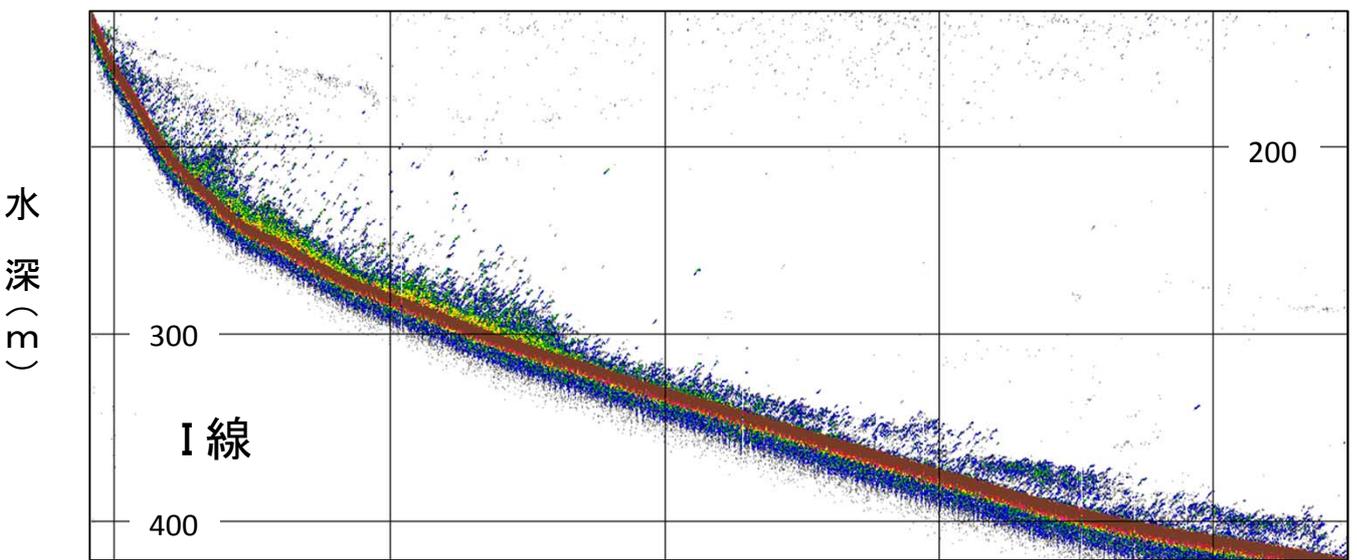
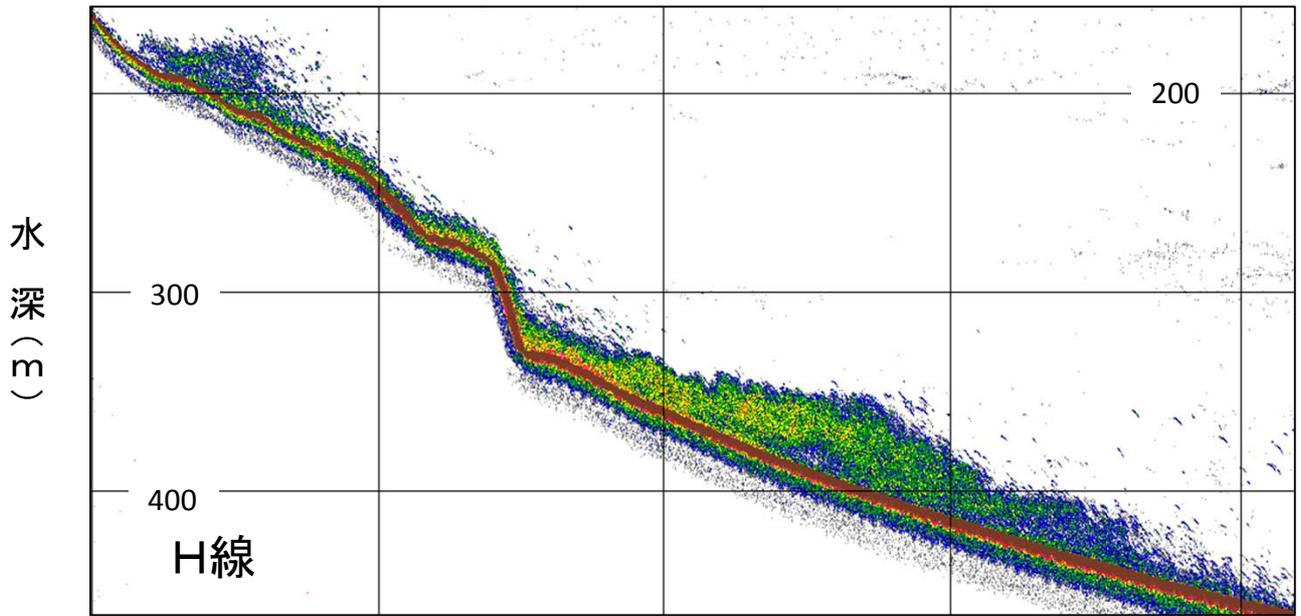


図2-2 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m

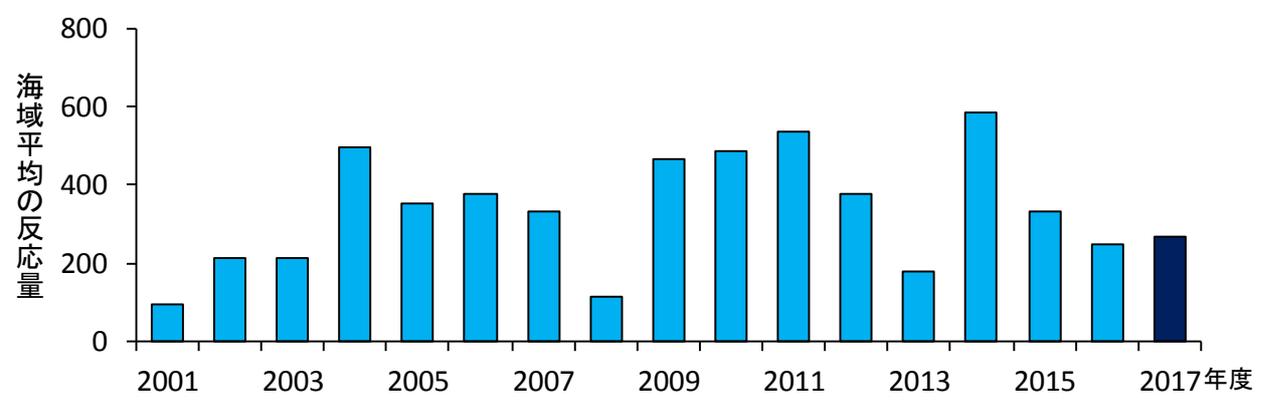


図3 調査海域におけるスケトウダラ魚探反応量の推移

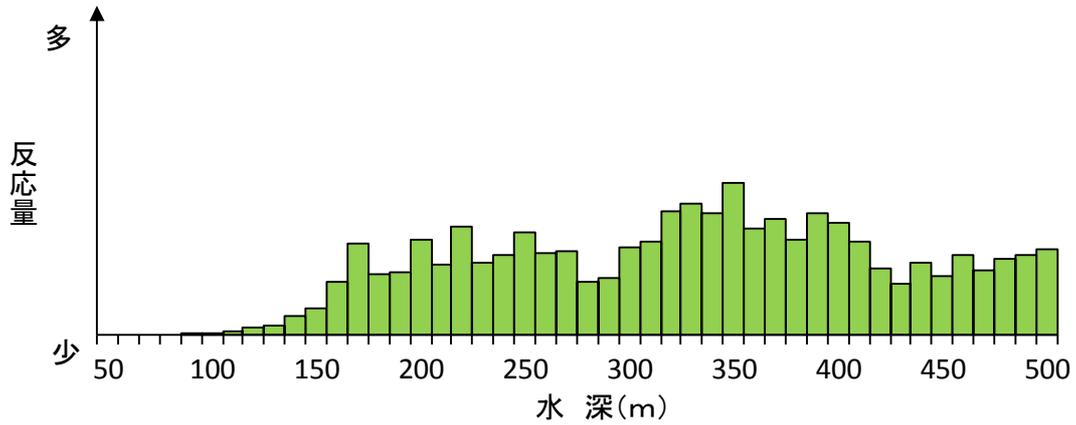


図4 水深別の魚探反応量

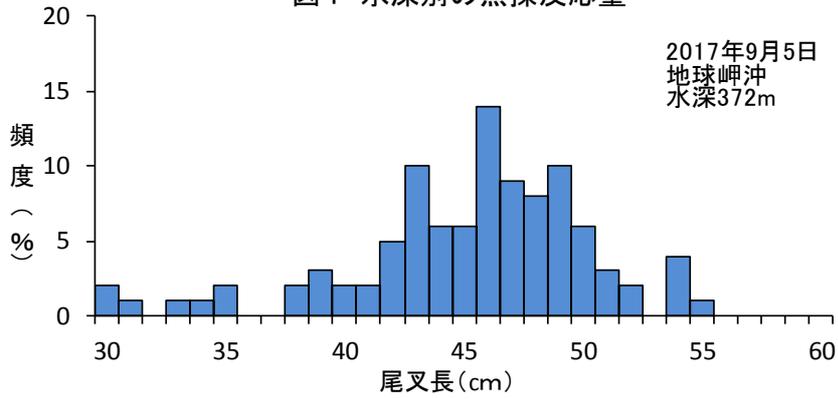


図5 漁獲物の体長組成

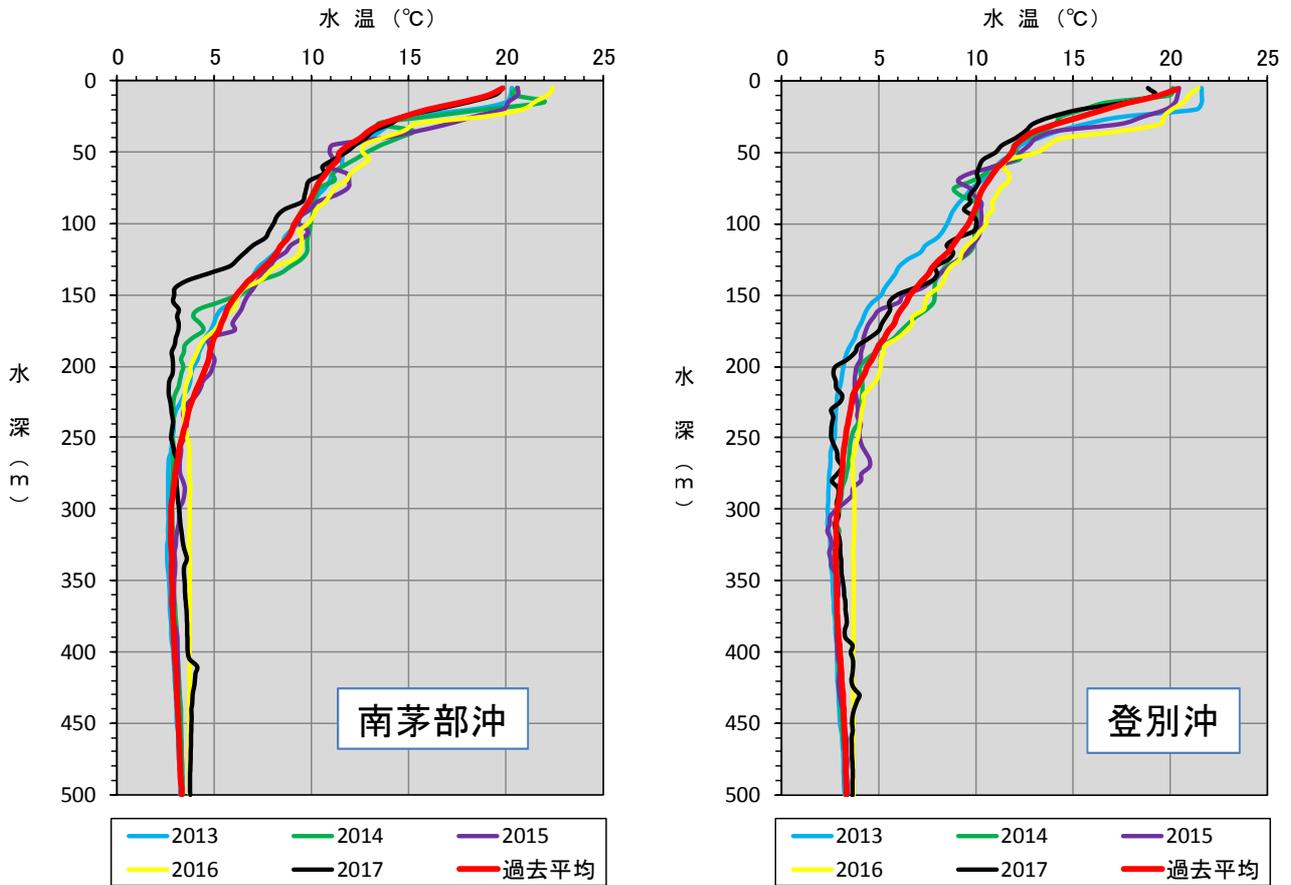


図6 8月下旬における水温の鉛直分布 左:南茅部沖(N42° ライン上), 右:登別沖(Hライン上)
(過去平均:本調査における2002~2016年度のそれぞれの調査点の平均値)